

きどころイントラの 教本に載ってないワンポイント座学

2024 年 9 月 22 日

第3回 空中接触を避けるには

《空中接触はとても危険な事故》

十中八九は大怪我にはつながりませんが、
シリアスな事故につながる可能性を持っています。
車で言えば衝突事故です。空には道路がないので更に起こりやすいとも言えます。
そして空は前方や左右のみならず、上下の接触もあるので更に注意が必要です。



《空中接触が起きる原因は圧倒的に注意不足》

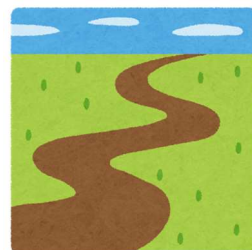
ソアリングに夢中になったり、逆に注意力が低下したりすると、人間は認識範囲が狭くなります。
例えば自分の進行方向や旋回方向のみしか意識しなくなります。
自分がぶつけないためには自分の進行方向を意識する事はとても重要ですが、自分がぶつけられないためにはそれだけでは不十分です。

《自分の 10 秒先までの進路をイメージして、それに接近しそうな物体を常に察知する》

旋回中なら1周分、直進中なら 100m 先までの自分の軌道を常にイメージしてください。

それに対して 10 秒以内に接近しそうな物体を察知するためには前方のみを注視するのではなく、ある程度適度に左右上下に注意を払い続ける必要があります。(キョロキョロし過ぎは×)

10 秒で自分も進みますが、相手も同じくらい進みますので、早めの察知がとても重要です。



《思い込みは事故の元》

事故体験者に話を聞くと、思い込みがあった場合が殆どです。

「旋回中だから自分が優先なので、こっちにまっすぐ突っ込んでこないだろう」

「スクール生なので優先されるから、パイロットが譲ってくれるだろう」

「大会中だから、スクール生が混じってくる事はないだろう」

「右旋回の日だから、左には旋回してこないだろう」

思い込みは油断を生み、注意が逸れます。そして数秒後に気づいたときには回避困難な状況を生み出します。



空では常にある程度の疑いを持ち続けてください。そして早め早めの回避を意識**しましょう。**

お互い 32km(9m/s)で飛行していたら、向かい合えば 64km(18m/s)にもなります。

パラやハングは急旋回が苦手です。機体が反応するは数秒後になります。その数秒間で何十mも進むことになってしまうのです。当然接触は避けられません。避けるためには少なくとも 5~10 秒前に正しい回避をする必要があります。直前での回避はお互いに迷いを生み、更に反応が鈍くなります。

《どうしても近くを飛ぶ場合は相手パイロットの観察をしましょう》

ソアリングを楽しむにあたって、ある程度他のパイロットの近くを飛ぶ必要があります。その場合は**アイコンタクト(相手の顔を見る事)**が**とても重要**です。数秒間、顔がこちらに向いていなければこちらに気づいていない可能性が高いです。最悪の場合、こちらを見ずに近寄ってくる場合もあります。**必要に応じて『こっちにいます！』等の大声**を出しましょう。※過度な威嚇(罵声)はマナー的に良くないのでやめましょう。

そして相手がこちらを見ていれば、こちらに近づいてくる可能性は低くなります。

顔の次は体を見ましょう。左右どちらのブレークを引いているか？どちらに体重を入れているか？人間の動きを見れば、ある程度数秒後の相手の動きが読めます。

とは言え、アイコンタクトに夢中になりすぎると、自分の周囲の警戒が疎かになりやすいので、適度で済ませましょう。



《エア(トラフィック)ルールは規則ですが絶対ではありません》

エアルールは当然理解が必要です。ですが『絶対守られる事』ではありません。思い込みは危険です。柔軟に迅速に判断できるようにしましょう。

- 同行度で交差しそうな時は、相手を右側に見る方が進路を譲る
- 正面で向き合った時は右に避ける(山側優先)
- 他機の前に割り込み禁止
- 高度処理やセンタリング時は低高度優先
- 同空域でセンタリングする時は先に旋回している機体と旋回の向きと中心を合わせる

